



**お年とり、初詣
年始まり**

時の流れとともに文化的な催し、そして人々の習慣は変化してゆくのが世の常。

平成の世の締めくくりとして総括しましょう。「年末年始行事」を…。

『しめ縄づくり教室』

正月の飾り物をするのは28日が縁起が良く最適な日とされています。末広がり「八」が含まれるためと考えられているようですが、他に鏡餅や門松などにも共通しているようです。南松本1丁目町会においては、故藤森町会長が毎年暮れに注連縄づくりの教室を開き続けてきましたが、4年ほど前に参加者が3人程になりました。講師も少なくなり、松や藁の確保も難しくなっている現状では、町会でのしめ

縄づくりは残念ながら望めません。

正月飾りの本当のいわれや伝統を引き継ぐためにも、地区公民館で行っていただけたらと思います。

(中田清和)

『お年取り』

信州では国を二分するかの如く風習に差がある。大きくは魚が違う。富山方面からは村井まで鰯街道があり「鰯派」と南信地方からの「鮭派」。近年ではそれも入り混じって、家々それぞれとなった年取り魚。

『初詣、年始廻り』

皆さん氏子である地元の神社お参りしてますか？まずはこの地区の大半が氏子の多賀神社です。大きな神社はそのあとで…。年始廻りはしなくなり、営業だけの特務ですね。

『繭玉づくり、三九郎』

三九郎に合わせ繭玉づくりをして柳の枝につけてかざったものですが、近年は作らず



買って来る家も多いとか…。

三九郎、私たちの地区でもそうですが松の内(1/17)のうちに松を集めて焼いてしまおうというバチの当たる様な行事となつてしまい悲しいです。本当は小正月の行事なのです。(百瀬 壽)

『安房トンネル見学会』

霧水が咲く10月29日、地区防災会の中野会長の案内で、普段は入れない避難坑(旧調査・作業坑)を視察しました。着工以来の約40年を知るベテラン職員の説明は詳細で、隆起山脈の火山地帯を貫くトンネルの実像がよくわかりました。「掘削より大変なのは、信州側は高温の地熱、飛騨側は膨大な地下水(温泉水は温泉郷で活用)でした。」とのこと。「世紀の難工事」を克服した技術水準の高さを学びに、諸

外国の技術者が来訪しているとのこと。

12月現在、焼岳周辺は火山性地震が頻発。噴火に直結する兆候はありませんが、警戒を呼びかけています。「3・11の時は震度4でしたが、地下水が変色し、各所から噴き出しました。地殻変動が激しく、かつては飛騨側に流れた梓川を信州側に変えたパワーを秘めていますから。」とも語られました。上高地には2本の、また奈川渡ダムにも断層が知られています。トンネル断面図は、この地の激しさをリアルに伝えていました。

63名もの犠牲者を出した御嶽山の噴火は、火山の恐ろしさを容赦なく伝えていきます。本トンネル工事も1995年、中ノ湯で水蒸気爆発により、若い技士ら4名の命を失ったことも忘れられませんが、東日本大震災は、「自然



パワーは人間の科学技術をもつていない。」という教訓も伝えました。想定外の自然災害が頻発する現代、技術

を過信することなく、自然との折り合いをつける知恵が求められています。(白澤 幸男)

視察研修を終えて

11月25日、小諸懐古園・海野宿への視察研修が町内公民館町会、公民館編集委員会で行われました。

小諸懐古園は城下町より低い位置に城を築いた穴城で全国でも珍しいお城だそうですね。園内には樹齢500年にもなる大きな榎や、深さ18mもの井戸、苔のついた野積み石垣は400年前のまま当時の姿で残されているそうです。また二の丸御殿からは上田市にある太郎山から上がる「のろし」が見えたとか：その場に立ち上田方面を見渡してみえました。平地では都市開発が進み、山々の自然は当時の姿を残していると思えます。時が経つても同じ山を眺めているのだと思うと不思議な感覚になりました。

今まででしたら漠然としか物を見れなかった私は、ガイドさんに案内をして頂いた事で、懐古園の歴史や小諸で過ごされた人々に触れる事ができ、心に残る研修でした。

(村口 淳子)

町会の文化活動②

芳野町会 サロン芳野

毎月第2火曜日に、11時～13時迄の時間に30人前後の人が参加しています。民生委員・健康づくり委員・ボランティアの方々が準備した食物を囲みながら、一ヶ月ぶりに顔を合わせる人達と声を掛け合いながら様々な話題に花を咲かせます。

11時40分頃からは10曲ほど合唱して楽しみます。12時には、大きな「おにぎり」と頭の体操クイズ用紙を配り、食べながら考えていただく時間をとります。

その後、折り紙・点繋ぎ塗りに絵等をしながら、楽しいひと時を過ごしています。

(吉田 廣志)



双葉南町会 一斉清掃後の焼き芋大会

双葉南町会では毎年恒例の行事として11月の一斉清掃後に「焼き芋大会」が行われます。

子供からお年寄りまで皆で楽しめる行事です。さつま芋は濡らした新聞紙とアルミホイルで包み、集めた落ち葉や焚き木をくべ熾火で焼くのです。焼きあがるまでの間は、もつ煮や豚汁を食べ、身体を温めながら町会の方々とのコミュニケーションの場となっています。自然の中で焼いたホクホクしたさつま芋はとても甘く美味しいです。今後も続けて欲しい行事です。

(村口 淳子)



双葉西町会 多彩な行事から

双葉西町会では「納涼祭・こども花火大会」「なんぶ未来まつり」への参加「敬老会」などさまざまな行事を行っています。

納涼祭やなんぶ未来まつりでは焼き鳥を出すのが恒例で、毎年好評を得ています。敬老会では手品ショーや食事を企画し「楽しく過ごせました」と、参加者の皆さんからお声をいただいています。

他にも「防災訓練」「年末夜警」「新年会」が行われています。

さまざまな行事を行うことで、交流が深まりよりよい町会になることを目指しています。

(山本 律子)



宮田西町会 そば打ち体験と試食会

宮田西町会では昨年11月、第9回目となる「そば打ち体験と試食会」が賑やかに開催されました。今回は初めての方も含め11名が宇梶博人さんの指導でそば打ちを体験しました。まず「捏ね」で悪戦苦闘、その次は「のばし」でまた苦闘、とどめは「切り」です。中には、きしめんと見間違えるものもあり、わいわいがやがや、大汗をかきながら本当に楽しい集いとなりました。

体験の後は女性陣の皆さんが真心こめて作ってくれた「かき揚げ」や「お漬物」と一緒に試食(32名参加)、皆さんから、今までで一番美味しいとの言葉が多く聞かれました。また次回が楽しみです。

(近藤 晴彦)



コラム松南

●近年の気候変動

気候の平年値は、過去30年の平均の値で10年毎に更新されるそうです▲50～60年前、私は松本城のお堀でスケートをした時、ダイヤモンドダスト現象もみました。浅間の山道脇の急な小川は凍って滑り台にしたり、美鈴湖では35cm以上の氷が張り、スケートやワカサギの穴釣りをしたりすることができました▲市内の雪は降っても35cmくらいですが日陰の雪は春先まで解けず、北部の飯山地方の積雪は毎年3～4mになり2階から出入りする状態で、JR飯山線は積雪4m越で自衛隊が手掘で除雪に出動した記憶もあります▲この20年ほどスキー場は雪不足、市内は大量のドカ雪などがあり異常気象と言われ、昔あまり聞かなかった竜巻被害やゲリラ豪雨、線状降雨帯など新しい言葉が聞かれる昨今です。集中豪雨による記録的な降雨量、過去最高の気温、暖冬にドカ雪▲この先10年、30年後はどの様に変わっていくのか。私たちは減災について真剣に考えなければならぬでしょう。平年並みとは今…

(岡田 實)